

# 岡山県におけるジェネリック医薬品 使用促進の取組について

岡山県保健福祉部医薬安全課

## 1 岡山県におけるジェネリック医薬品使用状況について

岡山県におけるジェネリック医薬品の使用状況は、平成31年2月現在の「最近の調剤医療費(電算処理分)の動向」におけるジェネリック医薬品割合において、79.4%であり、全国平均(77.5%)を上回っています。その一方で、未成年者での使用割合が低いなど、課題も抱えています。

国が掲げた「2020年9月までに、後発医薬品の使用割合を80%とする」目標を受け、岡山県においても、患者及び医療関係者が安心してジェネリック医薬品を使用することができる環境整備を図ることを目的に、平成30年度から、医療関係者並びに学識経験者・消費者等を構成員とする「後発医薬品の安心使用のための協議会」(以下「協議会」という。)を再設置し、普及啓発等を行っています。

## 2 事業について

### (1) 県民に対する普及啓発

ジェネリック医薬品に対する知識を深めるため、県民を対象とした研修会や、啓発用パネルを用いた展示を行っています。



●平成28年度薬立つフォーラム



●いきいき健康ライフ講演会



## (2) アンケート調査について

ジェネリック医薬品の使用実態や課題を把握し、必要な施策に資することを目的に、岡山県後発医薬品の安心使用のための協議会の平成30年度事業として、アンケート調査を実施しました。

### ①対象

病院・診療所 2,478 施設

「おかやま医療情報ネット」に掲載されている一般外来不可施設を除く全施設（病院 161、診療所 1,343、歯科 974）

保険薬局 797 施設

「おかやま医療情報ネット」に掲載されている保険薬局の全施設

患者 2,391 名

調査対象薬局に処方箋を持参された患者の中から1薬局につき3名を無作為に抽出

### ②回収結果

対象		調査票発送数	有効調査票数	有効回収率
医療機関	病院	161	113	70.2%
	診療所	1,343	811	60.4%
	歯科診療所	974	456	46.8%
薬局	保険薬局	797	546	68.5%
患者県民	患者（薬局）	2,391	851	35.6%

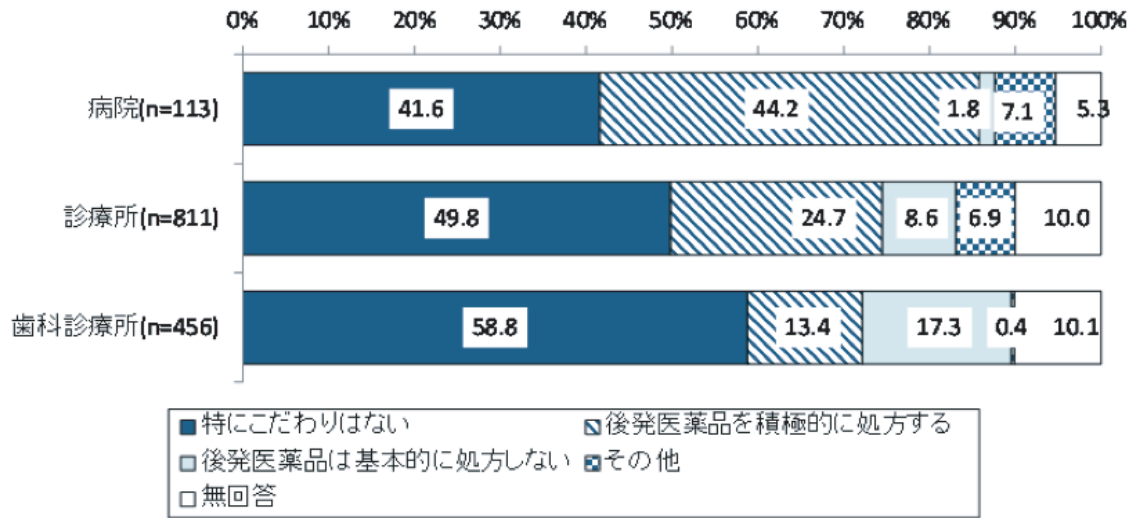
### ③調査結果

#### ○ジェネリック医薬品に対する考え方について

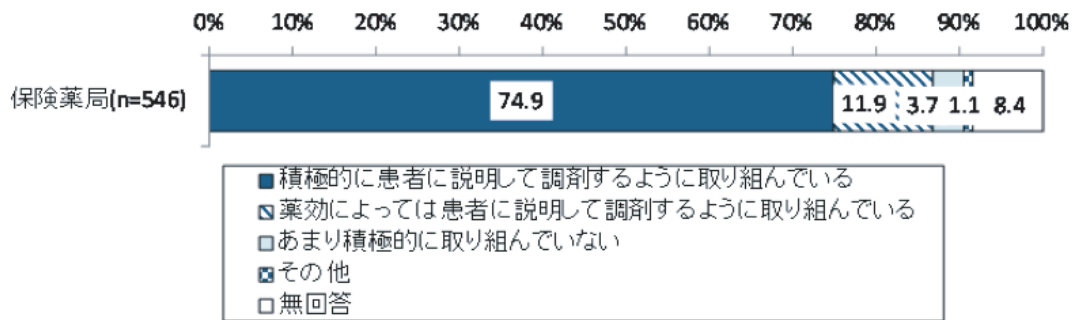
ジェネリック医薬品の処方に関して、医療機関については「積極的に処方する」「特にこだわりはない」、薬局については「積極的に患者に説明して調剤する」施設が多く、患者県民についても、ジェネリック医薬品を知っている、使ったことがあるという回答が多いという結果でした。



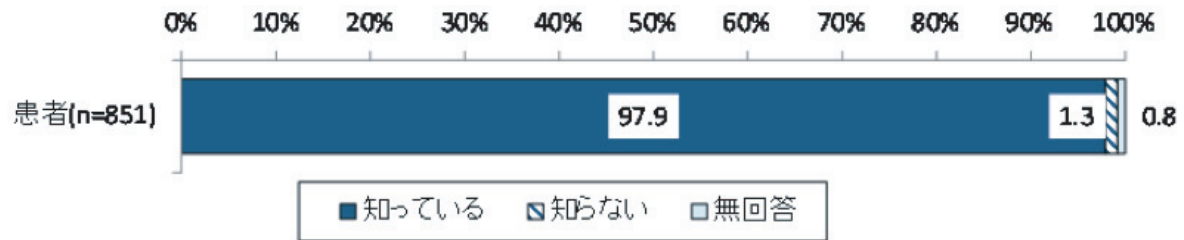
Q後発医薬品の処方に関する考えとして、最も近いものはどれですか。



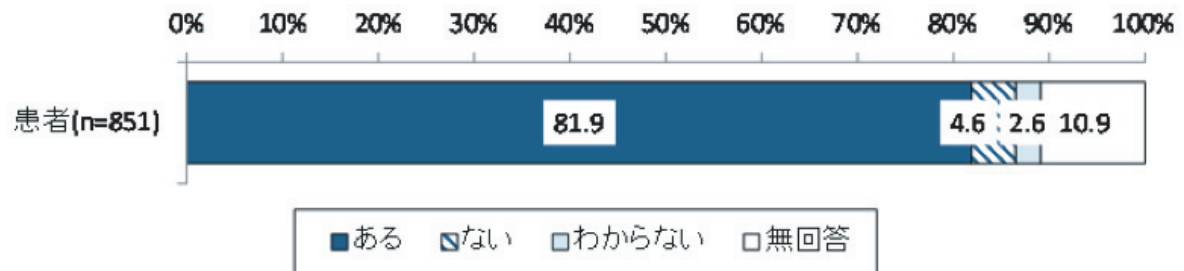
Q後発医薬品の調剤に関する取り組みとして、最も近いものはどれですか。



Qジェネリック医薬品を知っていますか。



Qジェネリック医薬品を使ったことはありますか。



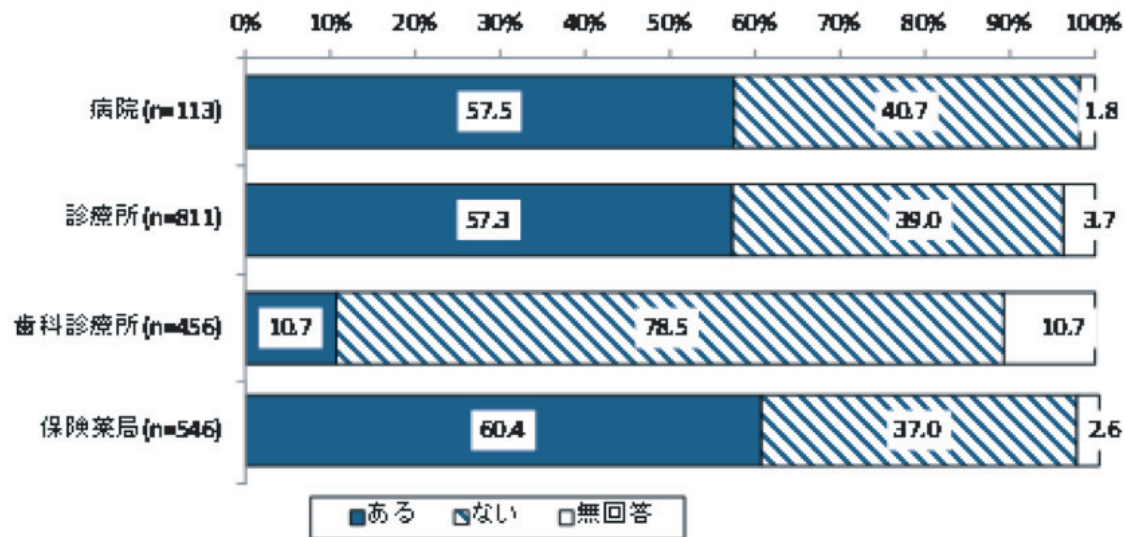


その一方で、医療機関の回答の中には、ジェネリック医薬品の効果や品質確保、副作用等の点で、ジェネリック医薬品に不安を感じているというもの、患者県民の回答の中には、効き目が異なると思う、今までの薬に慣れている、性状や使用感が異なるなどから、使いたくないというものもありました。

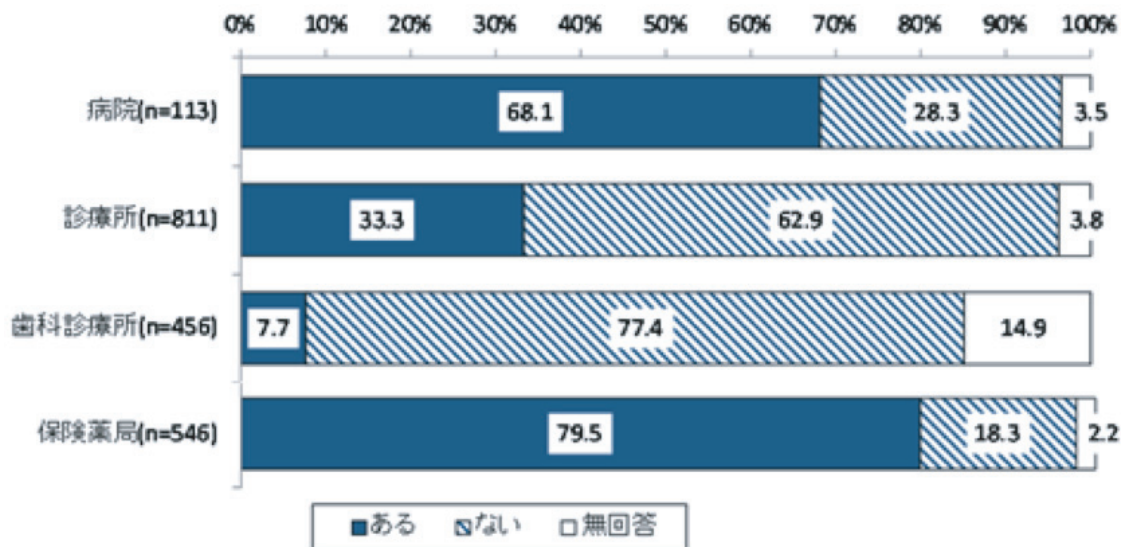
### ○ジェネリック医薬品の課題について

ジェネリック医薬品の効果が先発医薬品と異なる経験や安定供給されなかった経験がある医療機関、薬局も依然としてありました。これらの経験が平成25年以降と回答した施設が多く、引き続きの課題であることがわかりました。

Q 後発医薬品の効果が、先発医薬品と異なった経験はありますか。



Q 納品までに時間を要したり、急に製造が中止される等後発医薬品が安定供給されなかった経験はありますか。





## ④平成 21 年度との比較

平成 21 年度に行ったアンケート調査と比較を行ったところ、ジェネリック医薬品の使用に対して、積極的な医療機関、薬局は増えており、患者県民についても、ジェネリック医薬品を知っている方、使用経験のある方の割合が確実に増えていることが分かりました。

その一方で、ジェネリック医薬品に対して積極的でない理由としては、効果に対するもの、情報不足に対するもの、品質に対するものが引き続き多く増えており、在庫管理の負担についても未だ 45%の薬局であげられていました。

ジェネリック医薬品に対して重視する項目についても、引き続き、適応症が同じであること、情報提供体制、安定供給体制が重視されていることが分かりました。

項目	対象	比較	
後発医薬品に対して	病院等	積極的	↑
	薬局	積極的	↑
	患者	認知	↑
		使用経験	↑
後発医薬品に対して積極的でない理由	病院等	効果に対するもの	→
	病院等	情報不足に対するもの	→
	病院等、薬局	品質に対するもの	→
	薬局	在庫管理の負担	↘ (45%)
後発医薬品に対して重視すること	病院等、薬局	適応症が同じであること	→
		情報提供	→
		安定供給	↗

## ⑤アンケート結果考察

これらの結果から、ジェネリック医薬品の品質や効果に関すること、安定供給に関すること、情報提供体制に関することが課題として考えられました。これに対し、品質や効果に関しては継続的な監視指導を行うこと、安定供給体制に関しては企業への要請、情報提供体制については普及啓発や企業への要請を行うことなどを予定しています。

## (3) 令和元年度事業について

アンケート調査の結果も踏まえ、令和元年度は次の事業を中心に行うこととしました。今後も、ジェネリック医薬品の安心使用について、御理解、御協力いただけるよう、さまざまな施策を行っていく予定です。

- ・採用の参考となるよう、ジェネリック医薬品採用品目リストの更新を行う。
- ・ジェネリック医薬品の品質に対する不安の対策として、ジェネリック医薬品の工場見学を実施する。
- ・県広報紙、ホームページ、ラジオ等を活用し、広く県民に対して普及啓発活動を積極的に行う。